

【滋賀】

滋賀県立虎姫高等学校 新聞部

高校生ボランティア・アワード2024

【活動概要】

めざせ資源の地産地消！ お米でできたプラ製品で 地域の魅力を発信

私たちの学校のある長浜市で2022年の3月に二酸化炭素排出をゼロにする、「ゼロカーボンシティ宣言」が出されました。今、高校生の私たちは2050年に40代…脱炭素のために何ができるのか…考えました。

そんなとき新聞部の取材で「お米から作るプラスチック」であるバイオマスプラスチック「ライスレジン®」を知りました。お米を使ったプラスチックであるライスレジン®を使えば焼却時の二酸化炭素は約30%削減できます。これなら長浜市の「ゼロカーボンシティ宣言」にも貢献できます。取材では田植えから稲刈りまで参加しました。

一方、新聞部では、小谷城や姉川の戦い、駿ヶ岳の戦いなど長浜市の歴史を紹介する「ふるさととの歴史を知る」シリーズを展開していました。紙面では生徒に読んでもらうために、長浜市ゆかりの武将のイラストを部員が描いていました。そこで考えたのがライスレジン®で作る「武将クリアファイル」です。

長浜のお米から作ったライスレジン®を使ったプラ製品を作ろう！

プラ製品に新聞部で描いた長浜出身の武将のイラストを入れよう！

実際に作ってみました！

お米でできた
武将クリアファイル！



デザインはすべて新聞部員。
お米でできているのでかすかに甘い香りがして、手触りもやわらかいと好評です。

プラスチックの材料となる田植え、稲刈りに挑戦



長浜市の心配なこと②
農業農家が少なく、田圃地帯が広がる長浜市。耕作放棄地は年々増加。

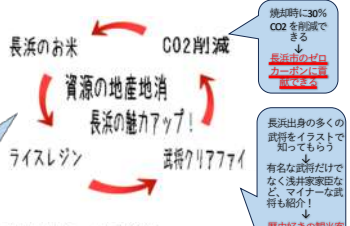
長浜のお米を使う
お米の需要が増える
↓
耕作放棄地の増加
もつづかぬ

【活動の目的】

自分たちが 住みたいまちを 自分たちの手で

長浜市の心配なこと①
2045年には人口が約2万減
生産労働人口も減に
令和4年の高齢化率29%

環境にも配慮した魅力的なまちをつくるために自分たちでできることは…



【ライスレジン®を使った武将クリアファイルの特徴】
1. お米で作ったプラスチックで脱炭素に貢献できる。
2. 長浜で作ったお米から作ることで、資源の地産地消になる。
3. 長浜の高校生が長浜出身の武将をイラストにして、長浜の魅力を発信できる

自分たちの手で魅力あるまちにできる！
それを発信したい！と若者が思えるまちになる。

【販売と募金】

歴史ある長浜を 武将クリアファイルで みんなに知ってほしい

クリアファイルは小谷城戦国歴史資料館で販売されているほか、小谷城や長浜市内で行われる「ふるさと祭り」で部員たちが販売しています。土日に行われる祭りですが、部員たちも楽しみながらやっています。

小谷城主の浅井長政、石田三成、七本槍で有名な片桐元元や脇坂安治などの長浜出身の武将のほか、姉川の戦いで名を馳せた磯野員昌や遠藤直経など、歴史好きの心をくすぐるマイナーな武将もそろえたラインナップで好評を得ています。

クリアファイルの収益は小谷城址の保全に使用されます。クリアファイル販売のほかにも、小谷城の保全のための募金をしてくださった方の配布する虎姫高校新聞の「ふるさととの歴史を知る」シリーズをまとめた冊子を作り、募金活動にも活用しています。



ふるさと祭り販売と募金

収益は小谷城の保全に役立っています



▲新聞の紙面です。
右は「ふるさととの歴史を知る」シリーズをまとめた冊子です。

部員の声

歴史と脱炭素のコラボができてうれしい
最初は歴史と脱炭素がコラボできるとは思わなかった。でも、考えていくうちに二つを上手くつなげることができた。
長浜のお米を使って長浜の歴史を発信し、脱炭素にも貢献できるのがうれしい。

【今後の展望】

さらに広げて私たちの手で魅力あるまち

新聞部では現在も「ふるさととの歴史を知る」シリーズを継続して、地元の魅力を発信することを続けています。
今後は武将クリアファイルの販路を広げるとともに、クリアファイル以外にも新たな製品を作れたら、と考えています。地元の小中学生にもアイデアを募るなどして、若者の手で自分たちが愛着の持てるまちを作っていきたいと思っています。

→①製品の販路を広げる！

- 小谷城戦国歴史資料館のほか
・小谷城最寄りの駅の観光販売所（観光客が多い）
・長浜市の観光地、黒壁の土産物店
・道の駅
・長浜市（今年は長浜開町450年！）と提携するなど

→②アイデアを募って新たな製品を作ってみる！

- クリアファイル以外にも
規程やお弁当箱など、
ライスレジンで新たな製品を作る。
- 市の指定ゴミ袋やお土産用ビニ袋なども
よいかも…！
- 小中高生に作りたいものを募る
- アイデアが生かされると楽しい！
- よく使うものならより身近に！

部員の声
応援してもらって若者の参加が大事と気づいた
小谷城戦国歴史資料館など、地元の方は高校生がこのような活動をするをすごく喜んでくださり、応援してくださった。そのおかげでクリアファイルも作ることができた。活動の中で、地元の良さを伝えようとしておられる人が多いことを実感した。ただ、そのような方も高齢の方が多かったため、若者がまじりくりに参加することが大事だと気づいた。



【虎姫高校新聞部 プロフィール】

虎姫高等学校は、滋賀県長浜市にある県立高校で、令和4年に創立100周年を迎えました。開校以来「質実剛健」を校訓としています。

「虎姫高校新聞」は昭和24年に創刊、一時期休刊していましたが平成28年に復刊し、新聞部は現在1年12名・2年11名・3年11名の34名で活動しています。校内のニュースはもちろん、地域の課題にも目を向け、広い視野で多くの人に読んでもらえる紙面づくりを心がけ、全国高等学校総合文化祭で令和元年度から5年度まで5年連続で最優秀賞を受賞しています。
さらに新聞作りだけでなく、まちづくり、「やりたいことは何でもやる」をモットーに、取材したことを生かして地域のまちづくりにかかわる活動を積極的に展開しています。